

第31号

発行日 平成28年11月21日

発行元 みやぎっ子ルルブル

推進会議事務局

(宮城県教育庁教育企画室)

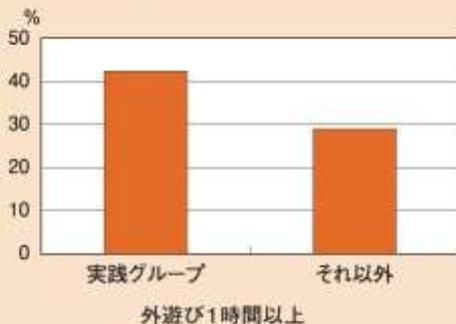
TEL(022)211-3616



ルルブル通信

自信や積極性を育む外遊び

【小学生の生活実態別自尊感情の高い子の割合】



注) 福岡県新社会推進部青少年アンビシャス運動推進室「平成20年度自尊感情調査」をもとに作成。

や友達とどう遊んだかなど、**子どもの話をゆっくり聞いてあげましょう。**

元気に遊んで家に帰ったら、手洗いうがいも忘れずに！

一般的に自分に対する評価の感情が高い子どもは、精神的に安定し、何事にも意欲的で前向きに生きようとする傾向にあるといわれています。福岡県が調査した結果では、**1時間以上外遊びをする小学生は、自分に対する評価の感情（自尊感情）が高い傾向を示している**ことが分かりました。

子どもが**自分に自信を持ち、何事にも積極的に取り組めるように**するためにも、**外で元気に遊ばせましょう。**

また、多くの友達と関わりながら遊ぶことも大切です。**友達と遊ぶことは社会性を育む第一歩**になります。

子どもが家に帰ってきたら、友達のこと



ルルブル親子スポーツフェスタを開催しました！

10月30日（日）、石巻専修大学で、約410組・1,400名が様々な教室に参加し、親子で一緒に体を動かして、ルルブルの「遊ブ」を実践しました！晴天の下、広い敷地内で思い切り楽しむ親子の姿が印象的でした。



まよおねえさんとLet'sダンス！



朝原宣治さんの指導に、皆真剣



元気いっぱいの女川体操♪

◆野球・サッカー・バスケットボール・陸上・ダンス・ヨガ・体力測定・ニュースポーツ・親子ふれあい体操など、盛りだくさんの教室の他、スタンプラリーも大人気！たくさん体を動かした後は、学生食堂で食事をし、家族一緒につろぐ様子が見られました。

◆「ヨシケイ宮城」・「東北大学災害科学国際研究所」・「宮城県教育委員会」の各ブースにも親子が訪れ、笑顔が絶えない1日でした。



楽天イーグルス親子野球教室



89ERS チアーズダンス教室



ベガルタ仙台親子サッカー教室

小学生ルルブルポスターコンクール・入賞作品決定！

県内の小学生を対象に、「しっかり寝ル」「きちんと食ベル」「よく遊ブ」の3つのテーマで、上学年（4～6年生）、下学年（1～3年生）、特別支援学校・特別支援学級の部門ごとに作品を募集したところ、昨年を上回る**63校から293件の応募**があり、厳正な審査を経て入賞者が決定しました。

現在、入賞作品（18作品）と第一次審査を通過した作品（13作品）を、県庁1階県民ロビーに展示していますので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご覧ください。

◆**展示期間：平成28年11月16日（水）から11月30日（水）15時まで**

※ 県庁の閉庁日（土曜日・日祝日）はご覧いただけません。

◆入賞者名簿は、教育企画室のホームページに掲載しています。

(<http://www.pref.miyagi.jp/site/ruruburu/ruruburu-posta28.html>)



ルルブル

ルルブル・エコチャレンジ事業を実施しました

県内の年少・年中・年長児及び小学校1・2年生約19,100人が、「ルルブル・エコチャレンジポスター」を使って4週間ルルブルを実践しました。報告に基づき、約350の幼稚園・保育所・小学校等に、「ルルブル・エコチャレンジ認定証」を送りました。これからも引き続き、**ルルブルを実践していきましょう！**

アンケートの自由意見から

夏休み中に各家庭で取り組めるところが良かったと思います。【小学校】



シールをカードに貼ることで、目標を持ちながら取り組むことができましたようです。【幼稚園】

生活リズム「早寝早起き朝ごはん」については、懇談会等でいねいに保護者へ知らせていますが、「大切さは分かっているけど難しい」との声が聞かれます。その中で、子どもサイドから大切さを伝え、子どもを巻き込んで家庭に伝えるシール・認定証の取組は良いと感じました。【保育所】

ルルブルのススメを連載しています

ルルブルを推進する、**みやぎっ子ルルブル推進会議の会員の皆様**の取組を、**新聞に7回シリーズで連載**しています。

その中で、本会議顧問の東北大学加齢医学研究所・**川島隆太**所長から、**ルルブルのポイント解説**をいただいています。

月に1～2回、不定期で、河北新報の第一社会面に掲載しますので、ぜひご覧ください。

ご覧いただいてのご感想なども、ぜひお聞かせください。



回数	掲載日	会員名	内容
第1回目	10月27日	株式会社クレオ	会社ぐるみでルルブルを社員に啓発
第2回目	11月10日	ウィル英語スクール	子どもたちに、英会話でルルブルを啓発
第3回目	11月24日（予定）	みやぎ生活協同組合	
第4回目	12月8日（予定）	明治安田生命保険	
第5回目	12月22日（予定）	株式会社明治	
第6回目	平成29年1月中旬	社の都信用金庫	
第7回目	平成29年2月中旬	未 定	

～取組を募集しています～

会社・団体での、ルルブルに関する取組を掲載しませんか？今年度は、残り1団体を募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

平成27年度 みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体 取組紹介③



昨年度、みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体として17団体が表彰されました。
今回は県内の小学校3校をご紹介します。

蔵王町立永野小学校

～地域と共に 「食」体験「遊」体験 in Zao～

取組の内容

蔵王町の特産である「梨」を「梨の木サポーター」と呼ばれる梨農家の方々の協力をいただき、年間を通して栽培しているほか、稲刈りや脱穀の体験、町のブランド牛の牛舎でのえさやりなどを体験しています。

また、異学年集団遊びの時間である「わくわくタイム」を設けて、遊びの中から社会性が育まれるような活動を続けています。

取組の成果

給食の残食量が減ってきており、体験的に学ぶことで、食の大切さはもちろん、「食」に関わる人々の思いについても学ぶことができています。

また、外遊びをする子どもたちが増えるとともに、普段から異学年の集団遊びが目立つようになっています。



柴田町立東船岡小学校



～東船岡秋祭りを楽しもう～

取組の内容

地域と学校の共催行事として「東船岡秋祭り」を開催し、児童は各学年で趣向を凝らした様々な催しを行い、大勢参加する地域の方々と、お互いに各ブースを行ったり来たりして遊びを中心とした活動を行っているほか、地域の方々、保護者、児童と一緒に芋煮会の準備をし、校庭でみんな一緒に芋煮を食べながら交流を深めています。

また、学校で作った米や大豆を使って、子どもたちが、地域の方の協力を得ながら味噌造りなどを行っています。



取組の成果

地域と学校の一体感や連携が深まり、子どもたちは毎年、地域の人たちに大切にされているという実感を深めながら成長してきています。

また、実践的な活動を通して、食に対する興味関心をさらに高めることができています。

川崎町立川崎小学校

～学校・家庭・地域の協働型の取組 「18年かわさきっこ」の活動～

取組の内容

夏休みにルルブルチャレンジカードを活用し、「はやね・はやおき・朝ごはん」等の基本的な生活習慣の定着を図っています。また、米作り体験や地場産の食材（こんにゃくいも）の栽培・収穫や料理教室を地域の方と共に実施しているほか、町の管理栄養士と食生活改善推進員（ヘルスメイト）と連携し、栽培したサツマイモの収穫やお菓子作りなどに挑戦しています。さらに、5年生は地域の先生と町の資源である森林を題材にした、野外での体験学習を実施しています。

取組の成果

保護者に「はやね・はやおき・朝ごはん」の大切さの理解が進み、子どもたちの生活リズムの改善につながったほか、郷土料理等伝統的な食文化を体験的に学んだことで、地域への愛着心も育まれ、地域の良さの発見や、地産地消の大切さを知る契機となりました。

また、野外での体験学習によって、「積極性、協力や思いやりの心が育った」という保護者からの声につながっています。



- みやぎっ子ルルブル推進会議では、会議の趣旨にご賛同いただける登録会員を募集しております。詳しくは、下記HP掲載の会議規約をご確認の上、[登録書様式](#)によりお申し込みください。
- ルルブルに関する取組事例や情報等がありましたら、下記までご連絡ください。



アニメむすび丸
宮城県・旭プロダクション

担当：みやぎっ子ルルブル推進会議事務局（宮城県教育庁教育企画室）
TEL：(022)211-3616 Email：kyoikupp@pref.miyagi.jp
URL：<http://www.pref.miyagi.jp/site/ruruburu/>



「学ぶ土台づくり」便り

第3号



宮城県では、ルルブル同様、社会総がかりで次世代を育てる幼児教育を展開するため、「学ぶ土台づくり」を進めています。

「幼児教育」って誰が行うの？

「幼児教育」というと幼稚園で行う教育をイメージする方もいるかと思いますが、「幼児教育」の**基盤は家庭**です。まずは、家庭が主体的に子どもの教育を行いましょ。家庭を支える環境として、地域社会や幼稚園・保育所等教育現場、そして行政があります。

第2期「学ぶ土台づくり」推進計画では、家庭・地域社会・教育現場・行政がそれぞれの役割を果たしながら共に取り組むことで、幼児教育の充実を目指しています。

学ぶ土台づくりミニ講座 第3弾!!

目標3 豊かな体験活動による学びの促進

幼児期は、人との関わりや遊びを中心とした体験活動を通して、道徳性や社会性、自発的な行動など、社会生活を営んでいく上での原点となるものを獲得していく大切な時期です。

思いやりの心、約束を守ること、生命や自然の大切さなどは、教えられて学習するものというより、むしろ、体験を通じて自らが気づき、実感することによって、初めて習得できるものです。また、様々な体験活動を積み重ねることにより、自ら考え、自ら行動する姿勢を身に付けることができるようになります。

生活体験や社会体験、自然体験などの多様な体験機会の充実を図るとともに、集団での遊びや活動の中で、協調したり葛藤したりする経験などを通じ、子ども自らの“気づき”を促す必要があります。

目指す子どもの姿

元気いっぱい 夢いっぱい
瞳かがやく“みやぎっ子”

～遊びや自然・人との関わりを通して、豊かな心を育てよう～

- 目標1 親子間の愛着形成の促進
- 目標2 基本的生活習慣の確立
- 目標3 豊かな体験活動による学びの促進
- 目標4 幼児教育の充実のための環境づくり



平成22年に国で行った子どもの体験活動の実態に関する調査では、「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やりがいや生きがいを持っている」という結果が出ています。

「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 紹介

「親になるための教育推進事業」

県では、平成23年度から高校生を対象とした「親になるための教育推進事業」を行っています。この事業は、親育ちを支援する環境づくりの取組の1つとして、親になる前の世代の高校生を対象に、親育ち・子育て等に関する講話や講演会、保育体験、母親学級への参加などを通して、家庭をもち、子を産み、育てるといふことの意義を適切に理解させ、将来自らが親になったときに親としてどのように成長していくべきかについて意識啓発を図ることを目的としています。

これまでに、延べ43校がこの事業に取り組んでいます。保育体験や乳幼児との交流を通して、初めて赤ちゃんや幼児と接した生徒もあり、子育てのイメージが不安から期待に変化した等の感想が見られます。また、講話から命の大切さや親への感謝を実感した感想も多く見られます。

次年度も新たな実施校を募り、親になるための意識啓発を行っていく予定です。



【取組の様子】

妊婦体験をする高校生

幼稚園児とお散歩しながら秋探し